



【最優秀賞作品】「お父さんを助けてくれてありがとう」

～小さな声に込められた大きな感謝～

昨年の夏、ご家族4人で来店されたお客さまがいらっしゃいました。

ご夫婦はともに35歳。お子さまは5歳と0歳の男の子です。5歳のAくんは、お父さんにそっくりで、いつもキッズスペースで元気に遊んでいました。0歳の赤ちゃんは、いつもすやすやと眠っていて、穏やかな空気が流れていました。

ご主人は独身時代に加入された保険をそのままにしており、十数年間見直しをされていないとのことでした。毎晩遅くまで仕事に励むご主人を、奥さまは「体を壊さないか心配です」と静かに見守っておられました。ご主人は「子どもたちの成長を見るのが楽しい。将来、やりたいことを自由にやらせてあげたい」と話され、「そのためにも、もっと頑張らないといけないですね」と笑顔で語ってくださいました。

ご夫婦は保険の話を真剣に聞いてくださり、何度もプランを練り直しながら、最終的にご主人は死亡保険・医療保険・がん保険にご加入されました。

「これで、明日から思いっきり仕事に打ち込めます」と、晴れやかな表情で帰られたのを覚えています。

それから数か月後、ご主人から一本のお電話がありました。

がんと診断されたとのことでした。

電話口の声は元気がなく、少し落胆されているように感じました。

翌月にはすぐに手術を受けられ、希望通りの治療をすべて行うことができたそうです。

「あの時、費用の心配をせずに治療に専念できたのは本当に心強かったです」と話してくださいました。

治療を終えられて半年後、再びご家族で店舗に遊びに来てくださいました。

Aくんはいつものようにキッズスペースへ直行。

奥さまから伺った話では、Aくんはがんという言葉の意味も分からないはずなのにずっと泣いていたそうです。

そして帰り際、Aくんが照れながら私にこう言いました。

「お父さんを助けてくれてありがとう」

その言葉に、胸が熱くなりました。

保険が支えたのは、治療費だけではなく、ご家族の安心と絆だったのだと、改めて実感した瞬間でした。